

# ダム資源の有効活用

～ダムを中心としたインフラツーリズムの発展を目指して～

中村 彩乃

相模川水系広域ダム管理事務所 総務課 (〒252-0156 神奈川県相模原市緑区青山字南山 2145-50)

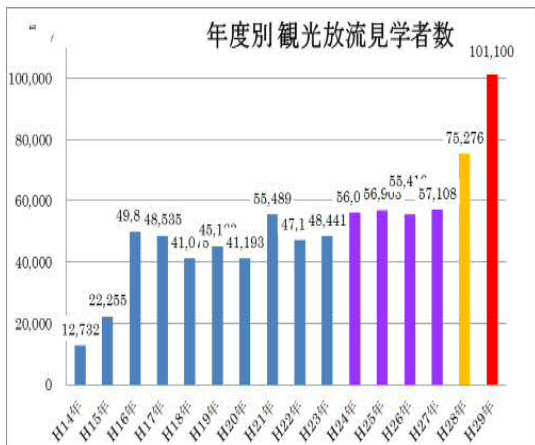
当事務所では、2002年から観光放流を実施しており多くの来訪者がある。今回は、宮ヶ瀬ダムへのリピーターを増やし、地域活性化や、更なるダムへの理解を図るための活動を紹介する。

キーワード：インフラツーリズム、宮ヶ瀬ダム、地域活性化

## 1. 背景・目的

相模川水系広域ダム管理事務所は、関東でも有数の人気を誇る宮ヶ瀬ダムの管理事務所である。近年、ダムマニアに人気のダムカードやテレビでも紹介されたダムカレーをきっかけとして巻き起こったダムブームの中、宮ヶ瀬ダムにも多数の来訪者がある。

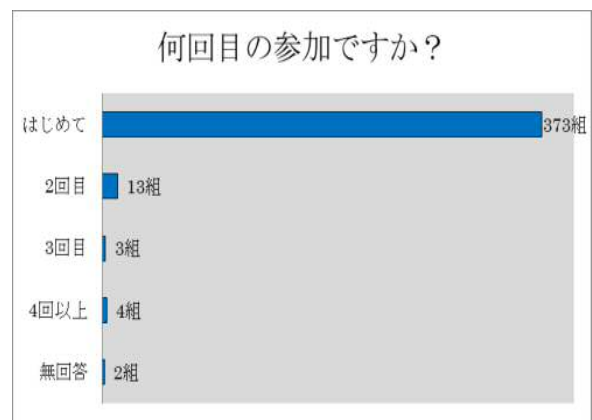
【図－1】



【図－1】 年度別観光放流見学者数

そこで、7月下旬の森と湖に親しむ旬間において来訪者のニーズを把握する目的でアンケート（第1回）を行った結果、一見客が全体の90%を超えていたことからリピーターが少ないことが判明した。

【図－2】



【図－2】 第1回アンケート結果

そのことに危機的意識を向け、リピーターを増やしダム資源の更なる有効活用を図るための検討を行うこととした。

なお、宮ヶ瀬ダムの管理事務所が来訪者数を気にしてリピーターを増やす努力をする理由は、リピーターが来なければ将来的に宮ヶ瀬ダムへの来訪者は

減少していくことが予想され、このような状態になればダム地域の衰退につながってしまうという危機感を持ったためである。そもそもダムは建設にかかる社会的負担が他の公共事業に比べて格別大きい。このため、ダム管理事務所は、施設の維持管理だけを目的とするのではなく、ダムという社会資本を観光資源として活用し、ダムを中心とした水源地域活性化に貢献しダムの恩恵を受ける下流域と直接の恩恵を受けないダム地域とのバランスのとれた発展を支援する重要な役割があると考えたものである。

そこで、ダム資源の有効活用のための検討部会として、当事務所全課が参加する「宮ヶ瀬ダムの今後を考える会（仮）」（以下「検討会」。）【写真－1】を立ち上げ、具体的な検討に入った。

## 2. 検討・実施

### （1）検討

まず、「検討会」において、第2回アンケートの実施を決め、その実施方法と内容の検討を行った。アンケートの内容は、宮ヶ瀬ダムのプラス面よりもマイナス面を重点的に聞くことを主とすることと決め、来訪者にアンケート用紙【図－3】への直接記入を求めるのではなく、担当職員が聞き取りを行いながら自ら記入する手法を採用した。

### （2）アンケートの実施

アンケートの実施方法は、来訪者の多い観光放流時の前後1時間において、職員2名が宮ヶ瀬ダム下まで行き、集中的にアンケートを取るようになった。聞き取りに当たっては、相手方が回答しやすいよう漠然とした質問ではなく、「本日利用した施設は何

か」「利用して悪かった点や気になった点はあるか」といった様に、明確な質問をする工夫をしたり、回答者になるべく不快な思いをさせないように、座っている方にはしっかりと目線を合わせてから質問をしたり、必ず笑顔で対応するよう気配りしたりした。また、意見が固まることのないように、アンケートの聴取年齢をばらけさせたり、犬連れの方にもアンケートをとったりなど、聴取条件を変えることで、より多くの意見を取り入れるよう心がけた。

しかし、それでも来訪者の多くが観光放流を待つ間もダムや周辺景色を楽しんでおり、渋い顔をしてアンケートを断られる方も多く、必要数を集めるのに苦勞することとなった。

### （3）再検討

第2回アンケートの結果及び改善箇所についての職員からの意見も合わせて、「検討会」において検討を重ねた。

第2回アンケートでは、ダム下や事務所下にある一般来訪者向けトイレ利用者から、「和式で使いにくい」、「多数の小学生が社会科見学等で来ているが、最近の小学生は和式トイレになじみがなく使い方がわからないのではないか」という意見が多く、そのほかには宮ヶ瀬ダム周辺施設の位置情報や施設情報がなく、駐車場の場所や食事処などの情報がなく不便だとの意見があった。

また、職員からは、観光放流時にダム堤体内の一般用エレベータが混雑しており、乗り切れずにダム下で放流を観られない人が多いとの指摘があり、この問題の改善策として、ダム堤体脇の管理用階段（通称フーチング階段）の一般開放が提案された。

吉ヶ敷ダム観光遊覧アンケート 平成 〇〇 年 〇 月 〇 日 ( ) 午前・午後

目的：吉ヶ敷ダムへ来られる観光客のニーズを知り、より楽しんでいるかどうかを確認し、改善点を知るために実施したものです。ご意見を聞きます。

1. どのくらい楽しめましたか？  
 [とても楽しい ( )]、まあ楽しい ( )、普通 ( )、まあ楽しくない ( )、とても楽しくない ( )  
 交通機関 [自動車 ( )]、徒歩 ( )、自転車 ( )、バス ( )、タクシー ( )、電車 ( )、徒歩、自転車、バス ( )、タクシー ( )

2. 吉ヶ敷ダムへ来たのは何回ですか？  
 [初めて、2回目、3回目、それ以上 ( )]

3. 河川に入りの構図  
 \_\_\_\_\_

4. 知っていましたか？  
 [はい ( )]、いいえ ( )、わからない ( )、その他 ( )  
 [個人・家族からの紹介]

5. 観光客以外に思わなかったことや、これから思わなかったことがありますか。(その他、利用目的)  
 [観光目的、ダム上エントランス、ダムカヌー、ダム湖・高層橋、遊歩道、公園、遊歩道、ダム上、遊歩道等、その他 ( )]、その他 ( )

6. 素晴らしい観光地になったと思いますか？  
 賛成 ( )、反対 ( )

お名前 \_\_\_\_\_

性別 \_\_\_\_\_

その他 \_\_\_\_\_

7. またこちらにお越しになる予定はありますか？ [ ] [ ]  
 はい ( )、いいえ ( )、わからない ( )、その他 ( )

8. その他何かありましたら教えてください。 ( )

【図-3】第2回アンケート用紙



【写真-1】検討会の様子

(4) 改善の実施

a) フーチング階段開放 (試行)

「検討会」において職員から意見のあがったフーチング階段の利用について、階段の痛んだ箇所の補修を行った上で、『津久井導水路貫通20年記念の

イベント』時に、試行として職員直営での安全管理のもと、初めて開放を行った。【写真-2】【写真-3】なお、その際にもアンケート (第3回) を行い、開放を定期的に行って欲しいとの声を多数受けた。



【写真-2】フーチング階段職員点検



【写真-3】フーチング階段開放時

## b) トイレ改修

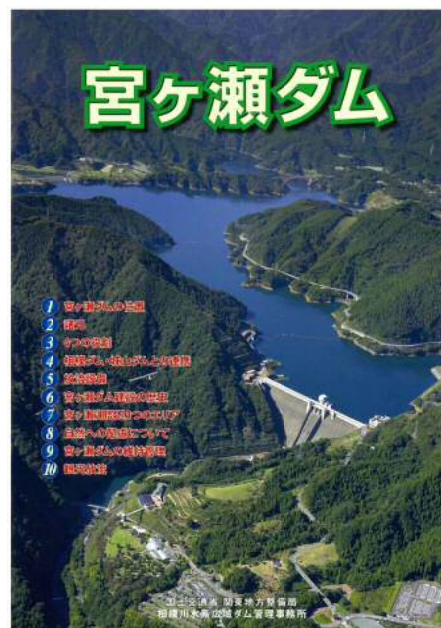
第2回アンケートで最も指摘された一般来訪者用の和式トイレについては、従前より改善要望が寄せられていたこともあって工事が予定されていたため、2017年度中に和式トイレを洋式トイレに改修することが可能となった。

## c) 簡易パンフレット作成

第2回アンケートで意見のあがったダム周辺施設の位置情報については、事務所で作成し配布している、総合パンフレット（宮ヶ瀬ダムの役割や水運用について紹介）【図-4】では対応できないことから、これまでは他機関（あいかわ公園を管理する神奈川県や宮ヶ瀬ダム観光を目的に設置された（公財）宮ヶ瀬ダム周辺振興財団等）が作成した周辺エリアパンフレットに頼っていた。

しかし、第2回アンケート結果を踏まえ、宮ヶ瀬ダムが位置する県立あいかわ公園を中心に、ダム湖周辺施設の位置関係がわかりやすいパンフレットを作成することとした。なお、本パンフレット作成に当たっては、予算をなるべくかけないような簡易なものを前提とし、しかし子供から大人まで見やすいものをレイアウトも含め「検討会」で意見を出し合って作成することとなった。

完成したものが【図-5】の簡易パンフレットである。



【図-4】 総合パンフレット



【図-5】 簡易パンフレット

## 3. 今後の課題考察

今後の課題としては、今年度のイベント時等において、改善後アンケート（第4回）を取り、来訪者の意見を踏まえた更なる改善を目指すことに加え、第3回アンケートの中で、国と来訪者間における、情報媒体認識の相違が【図-6】のとおり浮き彫り

になったことから、情報発信媒体の変更等検討（P  
C→スマホ、HP→SNS等）も必要と考えている  
（※）。

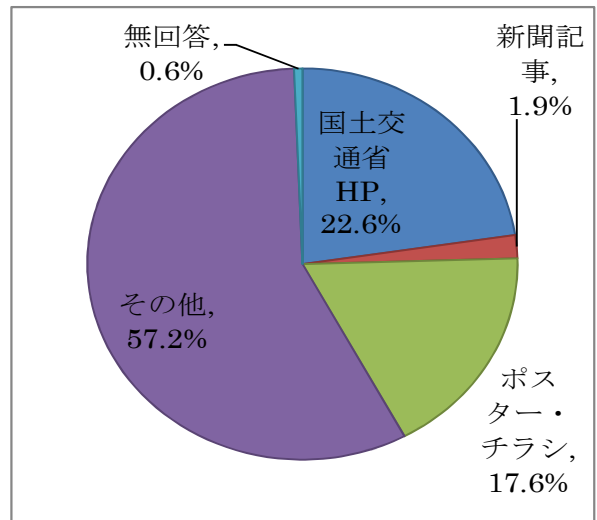
（※）第3回アンケート時のイベントに関しては、  
宮ヶ瀬ダムを訪れた回数が4回以上と答えた者が過  
半を占めた【図-7】にもかかわらず、情報取得媒  
体は“その他”が過半を超えており【図-6】、  
“その他”の内訳でも「来たら偶然イベントを開催  
していた」との意見が大多数であった【図-8】。

その他としては、ペット（特に大型犬）同伴者へ  
のアンケート結果から、宮ヶ瀬ダム周辺には犬が遊  
べる施設が少ないためドックランなどの施設が欲し  
いという要望や、ペットをつないで飲食がしたいと  
いった意見があり、また、ペット同伴での堤体内一  
般用エレベータ利用が可能である事実を知らない方  
が多いことなど、ペット同伴者への配慮や案内の工  
夫を要検討課題として考えている。特に冬季期間の  
来訪者激減などの問題に対し、自治体などとの協力  
と合わせて、ペット同伴者を呼び込む工夫ができな  
いかなど、「検討会」において検討していく予定で  
ある。

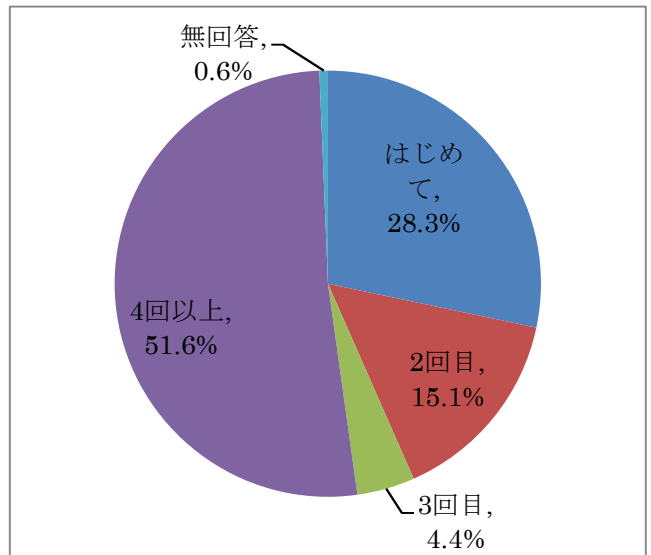
#### 4. まとめ

宮ヶ瀬ダムは運用開始からまもなく20年になる  
が、「検討会」を通じて、ダム資源の有効活用には  
まだまだ課題が多いことがわかった。

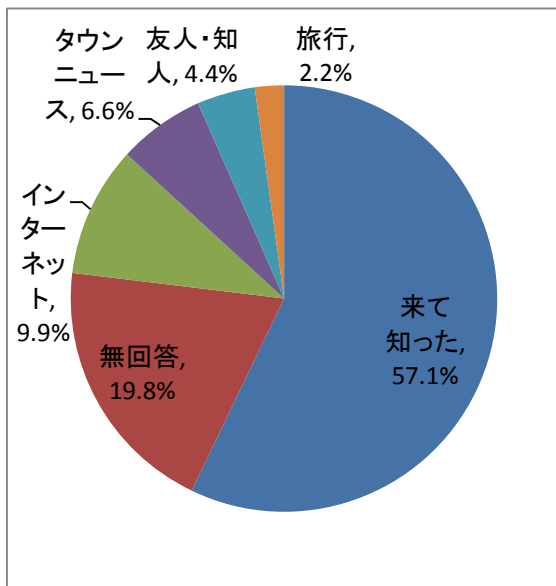
この大きなインフラを無駄なく社会還元できるよ  
う、少ない人員、限られた予算の中で何ができるか、  
事務所職員一丸となって知恵を出し合っていきたい  
と考えている。



【図-6】第3回アンケート結果（イベントについて何  
で知ったのか）



【図-7】第3回アンケート結果（宮ヶ瀬ダムに来た回  
数）



【図－8】 第3回アンケート結果（その他内訳）